

## 『深作沼ってどんなところ?』

～アーバンみらい東大宮周辺で秋の自然観察～ 深作から七里へ

令和2年9月27日(日)  
さいたま支部ベガサス分団

見沼区北部、綾瀬川右岸には広大な低地が広がっています。かつてここには東西約500m、南北約1,700mの深作沼がありました。深作沼は見沼代用水ができるまでは、下流の水田を潤す溜池の役割を果たしていました。用水完成後は、新田開発が行われましたが、低湿地であることや周囲の台地縁の湧水の流入により、大量の水があり、沼を埋めて浅くして水田にするために、同じ沼の底の泥を掘り上げて積み上げる「掘り上げ田」という方法で開発をしました。このようにしてできた水田は水が深く、作業用の「田舟」に乗って米作りをしていました。今は、排水の技術が進み、深作沼は通常の水田や住宅団地・工業団地、遊水地となりました。昔の深作沼の面影は「深作川多目的遊水地」に見ることができます。遊水地は貴重な水辺の環境となっており、サギやカモ、カワセミなどの鳥や、タヌノアシやヒシなどの希少植物が見られます。

深作は戦国時代、岩槻の太田氏の家臣八木橋氏の所領であったようです。江戸時代になってからは旗本領となり、紀伊徳川家の鷹場になりました。深作村では、有力農民となっていた八木橋氏が鳥見役に就任して鷹場を管理していました。日光御成街道に近く、鶴巻沼の別名を持つ深作沼には、多くの水鳥が集まり、よい鷹場であったようです。今は区画整理が進み、大きな住宅地もできましたが、深作川多目的遊水地の周囲には豊かな水田や特産のクワイ田が広がり、水辺の自然観察の適地となっています。

今回は、深作から宮ヶ谷塔、小深作と移動し、秋の自然観察をしていきたいと思えます。

1 期日 令和2年9月27日(日)

☝ 雨天、交通事情の混乱の時は中止します。

2 集合 春野小学校バス停前 午前9時30分

3 解散 七里駅 午前12時30分頃

4 自然観察ウォーキング 全行程約4.2km

春野小学校前→深作川多目的遊水地→観音寺下公園→春おか広場→七里駅  
※天候などにより、当日になって行程を変えることもあります。

5 持ち物

雨具、セロハンテープ、持っていれば双眼鏡、マスク

6 その他

- ・ベガサス分団活動は参加人数を把握して資料を用意する関係上、事前の申し込みをお願いしています。
- ・小学4年生以下の児童には、保護者の方の付き添いをお願いいたします。
- ・途中で先に帰る場合は年齢にかかわらず保護者の方の付き添いをお願いいたします。
- ・団体行動です。1人で行動してはいけません。1人のときはリーダーに行ってもらいましょう。
- ・危険なもの、まわりに迷惑をかけやすい物(刃物、ライター、モデルガンなど)は、もってこない。
- ・天候、交通事情、団員の健康状態等で予定を変更することもあります。